

小学校高学年用

じょうほうたんまつ

# 情報端末ガイドブック

～情報端末のかしこい使い手になるために～



コンピュータ、スマートフォン、タブレットといった  
情報端末じょうほうたんまつは、わたしたちの生活になくてはならないもの  
になってきています。正しく使うことでとてもべんりな  
道具になりますが、使い方をまちがえると、人を傷つけ  
たり信用をなくしたりする道具にもなってしまいます。

かしこい使い手になるためには、次の三つのことが大  
事になってきます。

- 自分の学びを豊かにする
- 自分の安全や健康を守る
- 自分も相手も幸せになる

熊本市教育センター

じょうほうたんまつ

## 情報端末を大切に使う

### 上手になる人は道具を大切に使う

一流のスポーツ選手やアーティストは、自分が使う道具に感謝の気持ちをもって大切に扱います。道具をぞつに使う人は上手になれないからです。

情報端末も自分たちの学習や生活を助ける大切な道具です。みなさんに貸し出されている情報端末のお金は税金からまかなわれています。落としてこわさないように、運び方や置き場所に気をつけましょう。

#### ていねいに使う

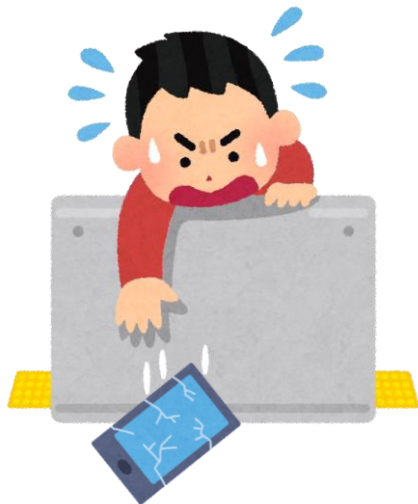
せいみつ きき

情報端末は精密機器ですので、落としたり、水にぬらしたりすると、こわれてしまいます。大切に取り扱いましょう。

また、情報端末は歩きながら使うと大変きけんです。タブレットの画面を見ながら歩くのは絶対にやめましょう。



#### 置き場所に気をつける



情報端末を机の上に出しっぱなしにしておくと床に落ちてしまうことがあります。また、家庭にいるときも置き場所によっては、落としてこわす可能性があります。

学校でも家庭でも決められた場所にきちんと置くように心がけましょう。

## IDとパスワードを<sup>かんり</sup>しっかり管理する

### インターネットを安心して使うために

インターネットのサービスを利用するにはアカウントというものがが必要です。このアカウントがないとメールなどが使えません。アカウントを登録するためにはIDとパスワードが必要になります。

IDはそれぞれ一人一人の名前や会員番号にあたります。パスワードはとても大事なものですから、他の人に教えては絶対にいけません。

#### 不正アクセスは犯罪

他人のIDとパスワードを使ってインターネットに入ることは不正アクセスという犯罪です。友達の情報端末がログインしたままになっていて、それを使った場合も同じです。これは「なりすまし」といって、絶対にやってはいけないことです。また友達にパスワードを聞くことも絶対にしてはいけません。



#### 自分のパスワードは教えない



まず絶対に自分のパスワードを他人に教えないことです。他人に知られてしまうと、勝手に使われてたいへんなことになってしまいます。

もしも、パスワードが他人に知られてしまったり、勝手に自分の名前アクセスされていたりした場合は、うちの人や学校の先生に相談して、すぐにパスワードをかえましょう。また不正にアクセスされた場合も、うちの人や学校の先生に必ず伝えましょう。

## 相手の気持ちを考え言葉を選ぶ

### 言葉で相手をきずつけることは犯罪です

はんざい

友達に「ウザい」「キモい」などの言葉を使ってからかうことや「死ね」「消えろ」「殺す」といった言葉でおどすことは、その人の心をととてもきずつけることになります。このような行動は、大人、子どもに関係なく犯罪です。インターネットの世界でも、相手の気持ちを考え、言葉を選んで、自分の気持ちを伝えることがとても大切なマナーなのです。

#### いたずらや悪ふざけではすまない

ネットは文字だけのやりとりなので、ちょっとしたいたずらや悪ふざけでも相手をきずつけてしまうことがあります。

バレないようにと自分の名前をかくして送ったとしても、誰が送ったかはすぐに分かってしまうことも知っておいてください。



#### がまんせずに相談する

そうだん



ネットを見ていて、自分に対する悪口などをみつけたら、がまんすることはありません。勇気をもって行動することがとても大切です。

まずさいしょにスクリーンショットなどでその画面を保存しておいてください。そして先生やうちの人に相談してください。もし言いにくいときには、それ以外でも相談できる人たちがたくさんいます。ぜひ勇気を出して相談してください。

## しょうぞうけん 自分や相手の肖像権を大切にする

相手がOKしないとカメラ撮影やビデオ録画はできません

肖像権とは、自分の写真や個人情報などを他人が勝手に使っ  
てはいけないという権利のことです。勝手にカメラ撮影や  
ビデオ録画をすることは、その人の肖像権をうばうことにな  
ります。これは、オンライン授業での画面をスクリーン  
ショットすることも同じです。たとえ相手から撮影をOK  
してもらったとしても、それをだまっていインターネット上  
にアップすることはできません。

### 相手をきずつけないために

どんな相手であっても、カメラ  
撮影・ビデオ録画をする場合には、  
その前に必ずその人のOKをもら  
うということです。これは芸能人  
でも同じです。

また、その画像や映像を広めたり、  
他の人に渡したりするときも、  
必ず相手が「いいよ」と言ってく  
れることが必要です。



### ひがいに 被害にあわないために



もし自分が知らないところで、  
自分の画像や映像があったとき  
には、スクリーンショットなど  
で画像を残しておきましょう。

だれがやったのか？その人の  
名前が書いていなくても、見  
つけることはできます。です  
から必ずそのあと、大人の人  
に相談してください。おうち  
の人や先生以外の人にも相  
談できる人がたくさんいま  
す。

ちよさくぶつ

## 他人の著作物を大切にす

### 他人の著作物は勝手には使えません

自分のアイデアを作品などにして表現したものを「著作物」といいます。本や音楽、絵、写真、イラスト、アニメ、テレビドラマや映画などは全て著作物です。作った人を「著作者」といいます。法律によって著作者は「著作権」というものが与えられます。もし私たちがその著作物を使うときには、著作者に使用料をはらわなくてはいけないというルールがあります。勝手に使うことは禁止されているのです。

#### 著作物は勝手に使えない

勝手に著作物を使うことは「著作権しんがい」という犯罪です。インターネット上のイラストや写真、音楽などを勝手に使うこと、自分で買ったマンガの場面を撮影して、情報端末に入れて友達に見せることも犯罪ということを知っておいてください。



#### 授業で著作物を利用する



学校の授業に限っては、著作物を少し自由に使うことができるという特別なルールがあります。たとえば、インターネットで集めた写真をプレゼンテーションのスライドに使うといった場合です。そのような活動をするときは、先生に著作物が使えるかどうかを相談しましょう。

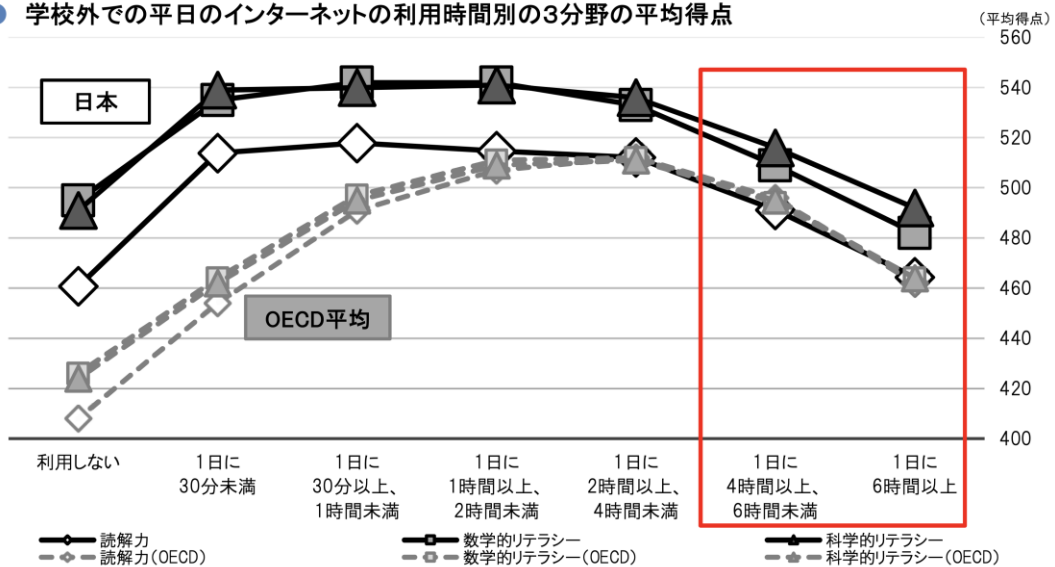
みんなが利用のきまりを正しく守って使うようにしましょう。

# 使う時間を決める

## どのくらいの時間使うかを考えましょう

日本の子どもたちは、世界の子どもたちに比べて、情報機器をゲームやメールで使うことが多く、学習にはあまり使っていないということがわかっています。下のグラフは、インターネットを使った時間がテストの結果とどう関係しているのかを表したものです。使いすぎると学力は下がります。でもぜんぜん利用しないほうがよいというわけでもありません。「何のために、どのくらいの時間使うのか」自分で考えることがとても大事になってきます。※

● 学校外での平日のインターネットの利用時間別の3分野の平均得点



### いぞんじょうたい 依存状態にならないために



やめたくてもやめられない状態を「依存（いぞん）」といい、学習にも健康にも良くありません。「自分でやめる自信がないなあ」と思ったら、うちの人にあずかってもらったりしましょう。

また、友達同士で夜にメッセージを送り合わないことをルールにしておくことも良いでしょう。

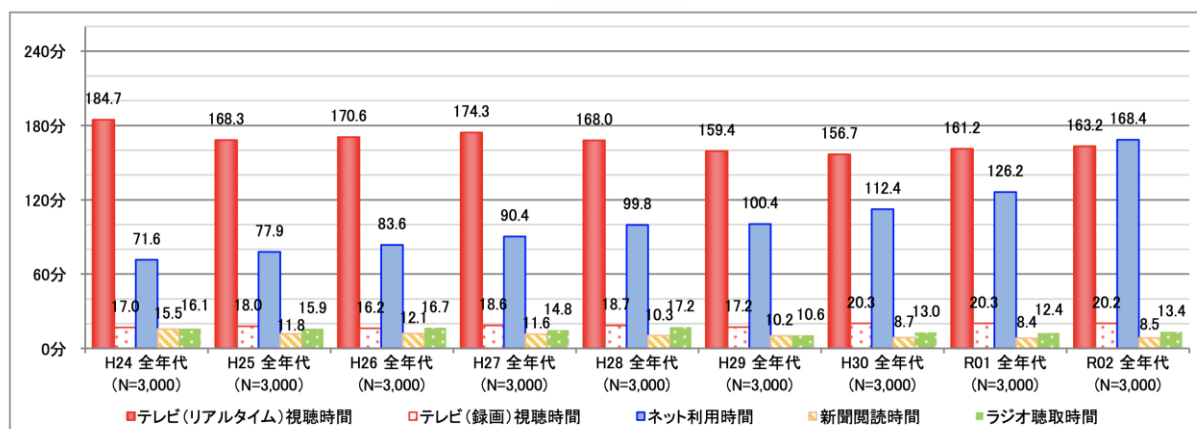
※文部科学省『OECD生徒の学習到達度調査2018年調査(PISA2018)』のポイント」

## 目を休ませて体を動かす

### ネット利用の時間が増えることのデメリット

下のグラフは、平成24年から令和2年までの、主なメディアの平均利用時間の変化です。ネットの利用時間（青色）がぐんと増えています。※

【経年】[平日]主なメディアの平均利用時間(全年代)



※総務省情報通信政策研究所『令和2年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書』

### 目を休ませる 寝る前は使わない

長時間の使用は目をつかれさせたり、寝つきが悪くなったりします。情報端末を30分続けて見たら、目を休ませます。寝る前の1時間前からは情報機器を使わないようにしましょう。※※



### 体を動かす 日光を浴びる



情報機器を使う時間が長くなると、運動不足になり、体力や運動能力が低くなる傾向があります。

しっかり日光をあび、体を動かすことで、健康な体づくりに心がけましょう。

げんじつ せかい じょうほう  
**現実世界から情報を集める**

一次情報と二次情報

見学やインタビューなどから得られる情報を一次情報といいます。また新聞やテレビ、インターネットなどから得られる情報を二次情報といいます。一次情報は集めるのに時間がかかりますが、直接集めた情報なので、確かな情報です。逆に二次情報は簡単に集めることができますが、本当に正しい情報なのかはわかりません。この二つの情報のちがいをきちんと理解しておくことがとても大切です。

映像にして記録する

社会科での見学や理科の実験・観察の様子、また体育科での自分の動きや国語科や外国語科などでの自分のスピーチなどは、録画しておく、よりよく学ぶための大切な情報となります。（相手がいる場合は、必ずOKをもらってから撮影しましょう。）



アンケートを使って考える

**アンケート**



アンケートをとることもこうした方法です。

集めた情報は、情報機器を使ってグラフ化することで、分かりやすく表すことができます。そうすると、いまどのような状態なのか、その原因は何なのかといったことを考えやすくなります。

じょうほう  
その情報が本当かどうか確かめよう

情報はいつも正しいとは限りません

最近、世界中のみんながインターネットに情報をかきこむことができるようになってきました。誰もが自由に情報を発信できるようになったことはとてもいいことなのですが、その情報がすべて正しいとはかぎりません。本当に正しい情報なのか、自分で判断する力が必要になってきています。

正しいかどうかを見きわめる力

2016年に起きた熊本地震で、町の中を歩くライオンの写真とともに「近くの動物園からライオンが放たれた」というウソの情報がインターネットで広がり大きすぎになりました。情報が本当に正しいのか見きわめる力が必要です。



「だ・い・じ・か・な」リスト

情報が正しいかどうかを判断するため、次の5つに気をつけてみましょう。※



1. だ この情報はだれが発信したのか？
2. い いつ発信されたのか？
3. じ じじつであるという理由はあるか？
4. か 自分とはどのように関係するのか？
5. な 情報を発信する目的はなにか？

## 表現することで学びを楽しくする

じょうほうたんまつ

### 情報端末は表現の道具にもなります

情報端末は、様々な情報を一つにまとめたり、自分になつとくできるまで何度も表現をやりなおしたりすることができます。今、世界では情報機器を上手に活用して、素晴らしい作品を生み出している人がたくさんいます。

情報機器を自分の表現能力を高めるための道具として活用してみましょう。ひょっとしたら自分の中にあるすぐれた才能を引き出してくれるかもしれません。

#### 何度でもやりなおしができる

情報機器の特長に、何度でもやりなおしができるという点があります。絵やイラストでは、色や形などを変えたりすることが自由にできます。音楽では楽器やテンポを変えたりして、様々な曲を作ることができます。情報端末を使って様々な表現にチャレンジしてみましょう。



#### 学習したことを表現してみる



授業で学習したことを自分の好きな表現でまとめてみることもよいでしょう。イラストや動画、新聞やリーフレットにまとめることで、学習はより生きたものになります。どうしたら学習が楽しいものになるか、その方法をいろいろ工夫してみましょう。